

歓迎のことば

日光市長
齋藤 隆男

第7回日本学生オリエンテーリング選手権ショートディスタンス競技大会が、日光市と今市市を会場に、全国各地の大学から750名の学生の皆様をお迎えし、盛大に開催されますことに対しまして、心からお祝い申し上げます。

日光市は、日光国立公園の中心に位置し、1200年以上の歴史を有する国際的観光都市として、その名を内外に知られております。東照宮をはじめとする「日光の二社一寺」の絢爛豪華な、あるいは質実剛健な建造物は、それぞれの時代における工芸美術の粋が集められております。加えて男体山を中心とした2000m以上の山々、中禅寺湖をはじめとする大小様々な湖沼、日本三名瀑の一つである華厳滝に代表される数多くの瀑布、戦場が原、霧降高原に見られる雄大な湿原や高原、豊富な湯量を誇る温泉など、全ての自然を有し、日本を代表する自然景勝地の一つに数えられております。

四季折々の変化を見せる自然美と神社仏閣の人工美との見事な調和は、年間を通して来見される600万人の観光客の人々により、高く評価をされております。

本年12月には、東照宮、輪王寺、二荒山神社を中心とする日光の山内地区が、世界の貴重な文化遺産を後世に伝えることを目的とした「世界文化遺産」に登録される予定であります。

さて、北欧を中心として発達したオリエンテーリングは、「健康・体力づくり」という理念のもと、豊かな自然を舞台に自らの身体の可能性を試すものであり、近年、人々の健康や体力に対する関心が高まりを見せるなか、今日の時代に相応したスポーツの一つであると存じます。

終わりに、選手の皆様のご健闘をお祈りすると共に、本大会開催にあたり、ご尽力をいただきました関係各位に敬意を申し上げ、歓迎のことばといたします。

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長
河合 利幸

日光と聞くと、東照宮と徳川將軍家の印象が強いのですが、その歴史は古く、奈良時代末期、仏教の修行僧・勝道上人の開山に始まるとのこと。山岳信仰の地として、豊かな自然を抱える日光は、インカレの歴史においても、重要な位置を占めています。振り返ってみると、日光ではクラシック、ショート合わせてこれまでに4回も開催されています。これは、良質のトレイン、宿泊施設、式典を行うためのホールなどの施設といった条件すべてがインカレに適しているからです。今後も4年に一度は開催する予定だということですから、学生オリエンティアの誰もがインカレのレースを経験できる唯一のトレインということになります。

さて、今回のショート競技大会、日光では第3回大会以来、4年ぶり2度目となります。来春には、クラシック・リレーも開催され、平成7年度に続いて今年度はまさに日光イヤーといえます。運営面でも、この秋・春の2回を、初めて同一の実行委員会が主管すること。運営幹部は、その平成7年度の秋・春の大会の際、4年生でライバルだった世代ということですから、なにやら因縁めいたものを感じます。さすがは山岳信仰の地、といったところでしょうか。

今回は、毎回毎回ご協力いただいている地元への感謝の意を込めて市民向け大会を併設したり、B決勝でもチェイシングスタートを採用したり、といった趣向が凝らされ、ますます当日が楽しみです。新入生諸君にとっては、初めての大学対抗のビッグイベントとなりますが、出場クラスや結果はどうであれ、とにかくインカレのもつ独特の雰囲気を楽しんでもらいたいと思います。また、他の大学の参加者と知り合うよい機会でもあります。このチャンスを活かして、今後のクラブ活動、ひいては大学生活をより充実したものにして下さい。そうすることこそが、忙しい職務の合間を縫って、最高の舞台を準備してくれている実行委員諸氏に報いることとなります。いずれにしても、参加者の皆さんの持てる力が存分に発揮でき、よりよいレースとなるように祈っています。

最後になりましたが、地元関係者の皆さんには、今回も様々な面でご協力いただき本当に有り難うございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長
西脇 正展

毎回開催の危ぶまれる中、綱渡りのように行われてきたインカレショートも今回で7回目にあたります。インカレクラシック・リレーに比べて予算も厳しい中、毎年日本でもトップレベルの地図の精度で開催されてきました。また、最近では演出にも力を入れて、「魅せる」大会になってきています。

このような大会を私たちは当然のように提供されていると思いがちですが、実行委員会の方の力なくして大会は開かれません。学生代表としてこの場を借りて厚く御礼申し上げます。学生皆がこうした気持ちを持って大会に臨んで欲しいと思います。

今年はB-Finalにも力を入れていると聞きます。実行委員会の方々には、より良い大会にしようと工夫して頂いています。それもみな私達学生の為です。ですから、私達も参加者の立場として目一杯インカレショートを楽しむことが大事だと思います。

ここ最近、日本学連自体の加盟員数減少の影響もあって、エリート辞退がされたり、参加者が減少してきているのも確かですが、それでもやはりインカレには人を惹付ける何かがあり、来たことを後悔することはないと思います。去年、新入生が「インカレショートって面白いですね」と言っていたのがとても印象的でした。

今年は日光にて行われます。その良さは、インカレのクラシック・リレーを4年に一度は日光で行なって、良質なテレインを体験してもらおうとしているほどです。実行委員会の方に舞台は整えて頂きました。しかし、その良さを存分に味わって、思い出に残る大会にしていくのは結局は私たちの役目です。是非とも素晴らしい大会にしていきたいと思います。

ご挨拶

第7回インカレショート実行委員長
藤咲 芳春

インカレショートもおかげさまで第7回を迎えることができ、学生の間でも秋の一大目標としてすっかり定着してきた感があります。

今年の舞台は、日本最高峰の良質テレインが集まる日光地区になります。この日光地区は周知の通り、4年おきにインカレを開催させて頂いている馴染みの地ではありますが、これまでは地元の方々のご厚意には感謝しながらも、残念ながら相互の交流までには至りませんでした。しかし折角インカレ(インカレショート)という素晴らしい大会を開きながら、それが学生オリエンテーリング界だけの閉じた世界に留まっているのは非常に口惜しいことです。そこで私たちは『地元との交流』をスローガンに掲げて計画を練り、準備した結果、「併設市民大会の開催」「地元婦人会による豚汁の無料提供」という形で実現をみました。

そういう訳で、大会当日は多くの地元の方が競技会場に訪れることと思います。学生の皆さんも競技の合間に豚汁をすすり、地元の方々と積極的に交流して頂ければ幸いです。そしてなにより、素晴らしい戦いを地元の方々に見せてあげてください。

さて、間もなく学生最速の座を競うインカレショートが始まります。三冠(ショート、クラシック、リレー)の第一関門はスピード勝負！というのはどこの世界でも共通のようですが、それはさておき、インカレショートはそのスピード感に焦点を当て、「魅せる競技」として発展してきました。今年もその路線に変わりはありません。見事予選を勝ち抜いた選手には至高のコースと演出が用意されています。どうぞご期待下さい。

逆に例年運営上の制約のために評判がイマイチのB-Finalですが、今年は面白くするための一つの試みとして、チェイシングスタートを導入しました。こちらでも張りのある戦いをして頂けたら恭悦でございます。

皆様のご健闘をお祈りしています。